

(資料提供)

月 日	担当館名	電話	担当者
12月10日	県立近代美術館	Tel. 088-668-1088 Fax. 088-668-7198	学芸員 友井 安達

所蔵作品展「徳島のコレクション 2008-I」特集・女性のイメージ の開催について

1 趣旨

この展覧会は、徳島県立近代美術館の所蔵作品を御紹介するものです。

所蔵作品展は、当館のコレクションの方針によって、「20世紀の人間像」「徳島ゆかりの美術」「現代版画」の3つのコーナーに分かれています。

今回は「20世紀の人間像」のコーナーで、「女性のイメージ」と題した特集展示を行います。

2 会期 : 2007年12月20日(木)～2008年3月16日(日)

なお、会期中に展示替えを行います。

前半：2月3日(日)まで 後半：2月5日(火)から

3 会場 : 徳島県立近代美術館

[展示室1、展示室2、美術館ロビー、屋外展示場、彫刻の小径]

4 開館時間 : 午前9時30分～午後5時

5 休館日 : 月曜日 ただし月曜日が祝日に当たるときは、その翌日。

年末年始(12月28日～1月4日)

6 観覧料 : 一般 200円(160円)

高・大生 100円(80円)

小・中生 50円(40円)

※()内は20名以上の団体料金。

※高齢者(65歳以上)と障害者は、割引があります(半額)。

※祝日及び振替休日は無料です。

※小・中・高生は、土・日・祝・振替休日、春・夏・秋・冬休み中の観覧料が無料になります。

7 関連事業 :

【学芸員による展示解説】

・2月24日(日) 午後2時～3時 展示室1、2(2階) 友井伸一(専門学芸員)

※観覧券をお求め下さい。

【美術を楽しむ・わたくし流】

音楽物語「アナトール×アトナール」

・3月1日(土) 午後2時～2時30分 展示室1(2階)

出演：朗読・高島由里、バソン演奏・井村雅音、ピアノ演奏・栗田美佐

対象：どなたでも ※申込不要、所蔵作品展の観覧券のみでご覧いただけます。

【美術を楽しむ・わたくし流】では、所蔵作品展に関連して、音楽や舞踊など、幅広い分野の催しを開催します。様々な分野の方の美術へのアプローチの仕方を通じて、みなさんの「わたくし流」の楽しみ方を発見していただきたいと願っています。

今回は、19世紀後半から20世紀初頭にかけて活躍したフランスの小説家、アナトール・フランスの短編『聖母の軽業師』と、無調（アトナール）の音楽とを掛け合わせて、今回のために創作された朗読と音楽による催しです。

【美術館講座】

「版画家・一原有徳 孤高のヴィジョン」

・3月2日（日） 午後2時～3時30分 講座室（3階） 竹内利夫（主任学芸員）

※参加無料

1998年に開催した「一原有徳・版の世界」から10年が過ぎようとしています。90歳を超えてなお独特の世界を展開している、一原アートの核心に迫ります。

【とくしま近美 こども鑑賞クラブ】

君こそアートの名探偵「徳島のコレクション 2008-1」

・1月26日（土） 午後2時～2時45分 展示室1、2（2階）

森芳功・竹内利夫（学芸員）・文化推進員

対象：小学生（保護者同伴可）※申込不要 参加無料（保護者は要観覧券）

土曜日の小学生たちに送るスペシャルなお楽しみ。遊びの感覚でクイズやツアーをしながら、自分で絵を楽しみ、自分で美術館を楽しむ体験をたくさんしてほしいな。主役は君だ。2時までに受付をして下さい。ロビーで会おう！

8 出品内容

当館の収集方針にあわせて、3つのコーナーで展示します。

【20世紀の人間像】

特集・女性のイメージ

古代ギリシャのミロのヴィーナスや、ルネサンス時代の女神像、あるいは慈悲深い観音菩薩像など、古来、女性は理想化された姿として、多く表されてきました。また平安時代の絵巻物の「引目鉤鼻」の女性や、江戸時代の浮世絵の、瓜実顔に切れ長の目の女性などには、それぞれ、その時代の美人の典型が様式化されています。

しかし近代以降、女性はもっと身近で日常的な姿として造形されるようになります。また、聖なる愛や純粹無垢の象徴であった女性の裸体像は、人体の造形的な美しさという観点からも、描かれるようになります。

このことは、手の届かない女神や画一的にパターン化された姿ではなく、女性をあるがままにとらえようとする近代的な態度だといえます。それは女神ではなく、現実にいる等身大の人間としての女性なのです。

今回は、時代や作家の価値観が反映され、個性的に表現されるようになった、近代から現代の様々な女性像をご紹介します。

前半 44 点 後半 45 点 (のべ 51 点)

【現代版画】

■ 清塚紀子 12月20日(木)～1月20日(日)

銅版画の様々な技法を駆使し、多様なイメージを組み合わせたり、幾何学的な構成によって独特の世界を生み出す清塚紀子(きよつかのりこ)。鉛箔や電機部品のコンデンサーを貼り付け、モノの物質感がイメージを誘い出す<航跡>などを展示します。 計 23 点

■ 島州一 1月22日(火)～2月17日(日)

新聞紙に泥で刷ったものを、さらにシルクスクリーンで刷ったり、箱や椅子のパーツなどの輪郭をなぞり、モノの表面とその奥や裏側の内容との境界を探るような作品など、表現の意味を追求してきた島州一(しまくにいち)の世界を紹介します。 計 18 点

■ 一原有徳 2月19日(火)～3月16日(日)

金属を腐食させるだけではなく、ドリルなどで傷つけて、モノの材質感を感じさせる作品や、版に塗ったインクを転写する、一度しか刷ることのできないモノタイプなど、版の表現の可能性を開拓してきた一原有徳(いちはらありのり)の不思議なイメージをお楽しみ下さい。 計 20 点

【徳島ゆかりの美術】

徳島出身の作家や、徳島の風景、風物を題材にした作品を紹介します。

徳島出身の広島晃甫(ひろしまこうほ)や日下八光(くさかはっこう)の日本画、また石川真五郎(いしかわしんごろう)の油彩画など、今回は風景を描いた作品を中心に取り上げます。

また、徳島出身で北海道で活躍している一原有徳(いちはらありのり)の、ステンレス板を使ったユニークな現代美術の作品なども展示します。

前半 23 点 後半 22 点 (のべ 34 点)

このほかに、美術館ロビー、屋外展示場、彫刻の小径に 12 点を展示します。

会期中のべ 158 点

内訳：

油彩画他 38 点、 日本画 16 点、 彫刻・立体 24 点、 版画 64 点、 水彩画 9 点、
素描 7 点 計 158 点